

ユニット構築会議／学術実験プラットフォーム検討会議（第 21 回）議事録（案）

日時：2021 年 10 月 6 日（水） 13:15-14:10

場所：オンライン

議事：1. お知らせ

2. プラットフォームに関する話題提供

・ SNET 遠隔実験ネットワーク（中西秀哉）

書記：徳沢

以下：敬称略

2. プラットフォームに関する話題提供

・ SNET 遠隔実験ネットワーク（中西秀哉）

（質疑のみ記載）

村上：全ての実験データに DOI をつけている例はあるか？全てのデータに付けることは実効的なのか？

中西：一部ではある。全てのデータとなると、数千万～一億エンタリーになり、他に例はなく、世界初が狙える。実際に JST/JaLC 側が LHD のデータ全てに DOI を付けるため多数の DOI 発行申請を一括受付処理することが技術的に可能かどうかは確認中。データの見せ方には検討が必要。核融合の特徴は、データの種類が多い事なので、これをアピールすることは有意義であると考えます。

居田：アラスカの研究所の磁気圏のデータの例があるが、DOI はデータの説明の部分（running head）だけで、データにはついていない。ガイドラインとしては、個々のデータに DOI は付けないという方針のようである。したがって、他に例は無いと言える。

中西：論文発表時、data citation/data reference がオープンデータの評価の指標の一つとして挙げられるようになってきているので、一波形ごとに、データを取得している人・計測器毎に、論文の数に合わせて cite 件数が増えることになり、成果が目に見える。

長壁：普段データを読むのはどうするのか？

中西：現在のシステムからシームレスに繋がられる。現在の retrieve, iread などのコマンドで読むという UI は変えずに、軽微な修正で対応することができる。

長壁：DOI からデータを読むとなると、アクセスが殺到して DOS 攻撃のように思われて対応されないか？これがデータ読み出しのボトルネックにならないか？また、データ件数によって金額が決められることにならないか？

中西：LHD のデータ参照 DB は既に（DOI 登録数の数倍はある）数億件程度のデータエンタリーで検索、参照解決サービスを行っており、技術的には重くなる懸念はあまりない。サブサーバを立てて参照解決処理を分散した対応事例もあるようだ。Index サーバを DOI 向けにアレンジすれば良いので対応可能だと考える。予算の方については引き続き検討する。